



—湾岸・アラビア半島地域ニュース—

イラン：ロウハーニー大統領のオマーン訪問

ロウハーニー大統領のオマーン訪問

2014年3月12日及び13日、ロウハーニー大統領はオマーンを公式訪問し、カーブス国王やファハド副首相らと二国間関係及び地域情勢について協議した。今次訪問はロウハーニー大統領にとって最初のアラブ諸国への訪問である。

ロウハーニー大統領の訪問に伴い、以下の合意が締結された。

- (1) 海底ガス・パイプラインの建設
- (2) 労働市場における手続き、制度、法律等の標準化
- (3) 職業訓練分野における情報交換の強化
- (4) 海洋などの環境保護、天然資源の保存における協力の強化

オマーンのルムヒー石油・ガス相によると、ガス・パイプラインの建設は2017年末までに完成する予定で、総額10億ドル規模の計画となるとのこと。また、今回の合意はドゥクム経済特区（オマーン南東部の経済特区）に対する投資についてはカバーしていないものの、イラン側からは特に石油化学分野に対する投資への意欲が示されたと述べた。

深まるイラン・オマーン関係

ロウハーニー政権発足以降、イランとオマーンは、2015年から25年間天然ガスをオマーンに輸出する契約を結び、両国間の直行便のフライト数を週14便から30便に増加することで合意するなど、その関係を深めている。2013年11月のP5+1とイランとの核合意においては、オマーンが米国とイランを仲介していたことが明らかになっている。カーブス国王は、2013年8月のロウハーニー大統領の就任式以降、最初にイランを訪問した国家元首であり、今回オマーンがアラブ諸国のなかでロウハーニー大統領の最初の訪問国に選ばれたのは、その返礼の意味もあると考えられる。

なお、ロウハーニー大統領の訪問前には、「ホルムズ海峡上にイラン・オマーン間を結ぶ橋を建設する計画にオマーンが合意することを望む」と駐オマーン・イラン大使が発言したことが注目されたが、3月10日、フタイシー・オマーン運輸・通信大臣は報道を否定し、「イラン側にそのような計画があるかどうかは関知しない」ものの、「オマーン側にはそのような計画は全く存在しない」と発言している。

(湾岸モニター班)